

Danno D, et al. Treatment of hemiplegic migraine with anti-calcitonin gene-related peptide monoclonal antibodies: A case series in a tertiary-care headache center. *Headache*. 2023 Jun 27. doi: 10.1111/head.14591.

【背景・目的】片麻痺性片頭痛 (hemiplegic migraine: HM)は運動麻痺を前兆として呈する片頭痛サブタイプであるが、運動麻痺は遷延する際には入院を要することがある。また、一般に頭痛発作は重度であり生活への支障度は非常に高い。治療は通常の片頭痛に対する方法に準じて行うが、トリプタンは禁忌とされているためひとたび頭痛発作が起きると十分な症状コントロールができないことがある。そのため、予防療法が極めて重要な片頭痛サブタイプと考えられる。CGRP 関連抗体薬は有効性と安全性に優れた片頭痛予防治療薬であるが、HM に対する効果はこれまで報告されていない。本研究では、三次頭痛治療センターにおける CGRP 関連抗体薬の HM に対する治療効果が報告されている。

【方法・結果】 ICHD-3 の診断基準に合致した HM で直近の 3 ヶ月間で片頭痛日数が 4 日以上認められた症例で、ガルカネズマブを投与された 6 名を対象とした。4 名は孤発性であり、残り 2 名は家族性であった。年齢の中央値は 26.5 歳であり、MIDAS スコアの中間値 125 で、中枢性感作指数 (central sensitization index: CSI) の中間値 42.5 であった。CSI は 40~49 では中等度 (moderate)と評価される。全ての患者は前兆として運動麻痺を呈していたが、全例で感覚症状を認めており、言語症状、前庭症状や視覚症状も高率に認められた。ガルカネズマブ投与によって、1 ヶ月あたりの中重度以上の頭痛を認めた日数は 3 名で、運動麻痺を認めた日数は 4 名でそれぞれ減少した。また、PGI-C (Patient's Global Impression of Change)と MIDAS スコアは 5 名で改善したが、煩わしい症状を認めた日数に関しては特定の傾向が認められなかった。一方、有害事象は認められなかった。

【結論・コメント】 本研究では、HM に対してガルカネズマブを使用することで、中等度以上の頭痛日数が減少した症例があるだけでなく、運動麻痺を認める日数の減少を認めた症例が存在したことが特筆すべき点といえる。CSI の減少効果も認められており、中枢性の病態機序に抑制作用が発揮された可能性を示した。一般に、CGRP 関連抗体薬は中枢への移行はごくわずかであり、末梢レベルで作用すると考えられている。しかし、視床下部の一部では BBB を欠く場所があったり、皮質拡延性抑制によって BBB が破綻する可能性も考えられているため、HM では CGRP 関連抗体薬が中枢レベルで作用する可能性は除外できない。今後、より多くの症例を検討する必要があると考えられる。